

二つの意見

子どもの意見

Ⅱ 学校と子ども

「男女共学」

(一九六六・一一)

●いまの学校は、男女共学ですが、男女別々にするのと、どちらがいいと思いますか。

四年 女子

やっぱり男の子がいっしょのほうがいいな。……だって、遊んでいるときなど、いじわるをするけど、やっぱりそういうのも、ちょっといいな。

五年 女子

べつになれば、女子と男子とけんかできなくなるし、リズムなんかも、女子だけでやるなんて、ムードがでないから。

六年 男子

男女がいっしょのほうが、勉強もたのしくできるし、ぼくたちにできないことを、しんせつにやってくれる女子もいて、男女いっしょのほうがいいや。

それに、給食の時間でも、女の子とおしゃべりするのもたのしい。そういうとき、すぐもんくをいう先生はきらいだ。

四年 女子

男の子がいないと、教室がしずかでつまらない。それに、やすみ時間がおもしろくない。

四年 女子

男の子は、教科書にいたずらがきをしたり、やぶいたりつねったりする。中にはあたまをぶつ子もいる。わたしのとなりやまえの男の子は、一日にいちどはなにかをする。そればかりではなく、テストなんかをみる。だから、男女べつべつがいい。

六年 男子

女はなにをやってもおそいしでれでれているからいやだ。男はともきびきびしている。

五年 女子

男子はいじわるで、なわとびをやっていて、だめしたのに、なにやらもんくをいっておもちにならない。それと、女をきょうはくしてはいろいろな物をかしてもらう。時によればそのものをこわす時もある。

「しんばいしています」

(一九六四・四)

小五 女子

私たちは、こんど、第二から第三小学校へいくといっていたが、六年になるひとはいかなくていいというので、ほっとした。

でも、いつもいっしょにいていた人と、こんどは、いっしょにいけないからよくない。

小五 女子

わたしたち牛浜は、こんど、第三小学校へいくと、きまったわけでないけれど、ここまでやってきたんだから、第三へいくことにはなりたいです。

牛浜ぜんぶもはなたいです。もしいくとなっても、ぜったいにいきません。

「学校のしゅくだい」

(一九六五・一一)

四年 女子

宿題がでたほうがいい。できればそれだけおおく、べんきょうができるから、宿題がでたほうがいい。

四年 女子

宿題のあるほうがいい、だって宿題がないと、じぶんでかんがえてやるようだから。

四年 男子

宿題なんてめんどくさいよ。学校からかえてなんかべんきょうなんていやだよ。

四年 女子

宿題は、わたしなんかつごうのいいときにだして、つごうのわるいときはださなければいい。おもしろいテレビがあるときなんか宿題はいやです。

四年 女子

わたしたちの先生は、あまり宿題をださないで、うちにかえってつまらない。

四年 女子

宿題はいやです。なんでかというとむずかしいからです。ひるまからやってよるまでかかるからいやです。

五年 男子

宿題もなければいいが、学校もなければいいな。

中一 女子

私は男の子に生まれたかった。それは、男の子なら宿題をわすれてたたされても平気だ。女

の子だったらたたされたらすごくはずかしいことを先生にしてほしい。

中一 男子

宿題を全部まちがいなくやってくれる機械はないかなあ。あればすぐに買いたい。

「つうしんぼ」

(一九六五・一二)

小四 女子

通しんぼはあった方がいい。だっておかあさんやおとうさんは、ふだん勉強を見ていないから、せいせきだけは知ってもらいたい。

通しんぼがあれば、おこられたりしても、自分のせいせきを知ってもらうためにあるものだから、ある方がとつてもべんりだ。

小五 男子

つうしんぽはないほうがいい。

どうしてかというと、どうせ五がもらえないからな。

あったほうがいい。てんによってお金をもらえるもの。

小四 女子

ぼくはつうしんぽがあったほうがいい。だってすこしでもあがればなんかかってもらえるし、さがったってもんくいわれるだけだから。

小四 男子

「第二中学校」

(一九六六・二)

●この年の四月から、福生第二中学校が独立します。

中一 女子

第二中学の方は、案外、外人とか黒人などの住んでいるハウスが多い。とくに、そういう人たちは心配なので学校の方でも、そういうことに注意してもらいたい。

一年 女子

今度、中学校が二つに分れる。

そうすると、いろいろふべんな点がある。でも両方とも新校舎なのでいい。それに両方の中学でクラブなど対こうできておもしろい。

でも、仲よくできた友達と別れることは残念でならない。

小五 女子

わたしは第二中学なら近くてあたらしくてよい。先生は宿題をあまり出さなくてやさしい女の先生がいい。わたしが中学生になるまでに、第二中学に一番さいしょにはいる人は、よごさないでしっかりとそうじをしておいてほしい。そうして、学校をみんなできれいにする校風をつくりたい。

中二 女子

第二中学校、ぜったい反対!! 私達のクラスの女子でよく第二中学のことを話します。みんなもやはり同じ考えです。ある子は、第二中学がダイナマイトでふっとんでしまえばいい、などといっています。

中一 男子

第二中学校に体育館はできるのだろうか。早く体育館ができないならいきたくない。いまの中学の方がいい。

「中学校」

(一九六七・四)

中二 女子

きょ年の四月に、第二中学校ができて、私たちが入った。もう一年たってしまった。私たちが入った時は、校舎のまわりは、林、畑、野原などがあって、とてもすてきだった。それに車なども通らず静かだった。それなのに、今はどうだろう。

校舎の前の林はもうない。校舎の裏には団地がいくつもつづき、プールの横にバスの停留所

ができ、バスやいろんな車が走っている。

一年もたつと、こんなちがってくるものかと思っている。

中一 女子

女子には、大根足の人が多い。

それを体育の時間などに見てひやかす男子が多いけど、あまり体の方がふとくて足の細い人よりは、足の太い人の方が、人によってはつりあっていいと思う。

太いなんていうより、安定性があって、いまの時代に心強くていいと思うけど。

中一 男子

放課後、しょうぎをさしていると、女子がきてバラバラにしてしまう。仕返しをしようとすると、いじめられてしまう。

おかあさんなんか聞くと、むかしは男が女をいじめたそうさ。このごろ女子はつよくてしょうがない。

もっと、女らしくしたらどうだろう。

「自 転 車」

(一九六七・四)

小五 女子

うちのお父さんは、ケチで古くさい。きょうだって私が、「新しい自転車買ってよ」というと、おとうさんは、「だめだよ、自転車なら、うちにあるんじゃないか」と言う。

女の子は、五年や六年になれば、男のおとなが乗るような古くさい自転車はかっこ悪いのを知らないんだから。まったく、ちかごろのおとなは古くさくてケチなんだから。おとうさんもPTAなんかへ出て、よそのおとなとなにかそうだんしてくれればいいのに。まったくちかごろのおとなは、子どもよりせわがやけるなあ……。

「教室で男女の席をならべたら」

(一九六七・六)

小六 男子

ぼくは、男と男とならんだほうが気がするにならべるし、女にしけんのわるいところをみられるのもしゃくだから男どうしがいい。それに女とならぶと、きんちょうしてしまっときまりがわるくなる。

小四 女子

男の子は、じゅぎょう中に、おしゃべりしたりよそ見をするしうるさいからいやだ。わたしのそうぞうでは、足でつくえをゆるがしたりすると思う。

中一 男子

ぼくは反対だぞ。なぜかというと、女のへんなにおいがして頭がいたくなって、ちよつとぶつかるとひやかされたりするからなんだ。

小四 女子

男とならぶのは反対だ。テストの時、カンニングするからだ。女どうしだと、すこしはおしゃべりするけど、カンニングをしない。男は、時にはなにもしてないのにぼう力をふるう時もある。男はやばんです。

小五 男子

このごろ福生の女の子はつよいから女とならぶと、こっちがやられてしまうからいやだ。そ

うするとひ害が大きいや。やさしい女の子ならいいけど、あんまりそんな子はいない。なにか
わすれものしたときも、かりるのがよかないし、はんたいだ。

座 談 会 Ⅱ

井戸端会議(2)

若者の集会場がほしい

(一九六七・一)

〓青年団の若者数人のおしゃべりです〓

○去年やった若い人のグループ同志のソフトボール大会はよかったね。あれ以来、いままで知らなかった町の人とずいぶん知りあいになった。

○もっと大ぜいでやれるように若い人の運動会をもりあげたらどうだろう。

○でも運動会のようなばくぜんとしたものは、あれだけの人が集まったかどうか、あれを足がかりにしてここの計画をしたらいいのじゃない。

○男性はあれだけでもよかったろうけど、女性はそういう機会がなかったね。

○青年団なんかへ出ても女性が少ないんだな、その支部のやり方にもあるね。男性が幾人か集まると飲んだりするの、女性はいやがるね。

集会場

○なにより、若い人が集まれる所が福生町にはないんだな。うちの方で去年、卓球台を買った

のよ。買ったのはよかったけれど、クラブの畳替えをしたからって、その後はクラブからしめ出されちゃった。少ない予算から無理したのに、これではなににもならなかった。

○うちの方でもそうだ。十二月からダンスの練習を始めたんだな、そうすると、やっぱり畳がいたむからって、だめなんだな、かなしいよな。

○青少協なんて、おとなはいつてるけど、少しはこういうところも考えてもらえないかな。

○福生の中で若い人の集会場は生活改善センターがあったけど。ところが三月まであれを保育園にされちゃった。町内会にはみんな会館があるけど、まず自由に使わせてもらえないしな。

○公民館があるといいな。青梅の市民会館のようなものがあればな。

○あんないいものでなくていいんだよ。俺たちで自由に使えるところがいいんだな。

〓こんな声を聞いて、幾人かのおじさんで、がやがややってみました〓

○青年団でも、ほかの会合へ出ても、スポーツ関係を除くとこの町には若い人がいないみたいじゃない。

青少協だ、家庭の日だ、青年学級だ、と指導層がいくらさわぎたてても、若い人が動いてく

れない限り、こういう運動は発展していかないじゃないかな。

○青少協のことで話が出てたけど、青少協の役員やってる人からいわせると、若い人がちっとも手伝ってくれない。青少協の役員なんて、本当ならPTAや町会のおじさんたちより、青年団や学生会の若い人がリーダーでやってくれることをのぞんでるんですね。

○いまやってる福生の青少協は少し過保護じゃないんですか。

もっと子どもたちなり、若い人なりに自由にやらせればいまの子どもたちはかなりやりやすいよ。

何か大人が世話を焼きすぎて子どもたちを心理的に責めているような気がする。

若い人が推進役です。

○ふつう進歩的な町というか、活気のあるところでは、大人のやってる町政なり、自治会なりに、青年団や若い人たちが注文をつけていくんですね。

福生町はそういう気分が少しも感じられないですね。

○若い人がいないわけじゃない優秀な人も多い、が、それが出てこない原因はいろいろあるでしょう。

一つはやはり集会場がない。公民館、図書館のようなものが欲しいですね。

一つは地元へ高校がないこともその原因になるような気がする。中学まで、あとは縁が切れていくんですね。

○若い人のグループは、戦後のものだけでもいくつもできたんだけどね。たいてい二、三年で消えてしまう。コーラス、演劇、美術会等々。やはりそういう人たちが続かなかった原因も、会場難が一番だったようだね。指導者の面もある。地元でそういう人がいないしね。スポーツなんかは、わりと活発なのは、その方面の人がいますよね。

○わりと続いている文化連盟もいまは疲れ気味なんですよ。

文化祭の美術展なんか、二、三年前のよりあがりのころは、福生の町にもこんな人がいたのかというように、すばらしいのが出てきた。ところがその世話役が続かない。それでかなりまとまったところで消えちゃった。

○コーラスなんかも一時、いくつかのグループが町の中にできた。ところが、それがみんな続かない。いまは、PTAのグループが一つあるだけ。軽音楽のグループなんかは多くなってきたが、そういうものがまとまって、発表会をいうところまではいけないんだな。

○学生会でもあれば、そこらが走り役をやってくれるだろうが。

○福生中の同窓会が、いつか、図書館のことで町へ陳情したりしたが、これもあとはどうなったかな。ああいうこと、どんどんやればいいんだ。

みんなで力を合わせましょう

○文化連盟つくったときね、あんなものが文化かなんていわれたりもした。でも、そういう趣味の人の集まりのようなものも力を合わせる必要がある。そうすれば福生にも除々に本式の文化が芽生えるだろうということだった。だから、文化連盟何もやらないじゃないか、と若い人が批判してるんじゃないくて、いまの文化連盟の十年の実績をいちおう認めて、その中へ入ってきてそれで悪いところは若い考え方で改善してつてくれればいいんだと思うね。

(終)

(文責 山崎茂男)

子どもの意見

Ⅲ 社会と子ども

「しんばいしています」

(一九六四・三)

小六 男子

F一〇五が横田にきた。

ゴォーッとすごい音をたてて飛んでいる。

うるさくて勉強もできない。

もしついたら、

と思うとぞっとする。

でも、日本を守るためにきているそうだ。

うるさいけれど、がまんして勉強する。

早くしずかな日本に

なってもらいたい。

「おとなとおさけ」

(一九六四・一)

●おとなはよくさけをのみます。そのことについてみんなの感じていることをきかせてください。

「さんせい」

小学 男子

正月などに、酒がないときぶんがなくなるから、あったほうがいい。ただ、それをのみすぎで、とらになるとよくない。

小学 男子

お酒があるほうがいい。

よっぱらうときげんがよくなつて。おかねやなにかがもらえるから。

中学 男子

お酒をのんだとき、みんなにめいわくをかけなければよい。
やけざけは、たいへんよろしい。ほくもそういうときがある。
たばこは、よったときはやめろ。火の用心のため。

小学 女子

私は、ビールならのめるから、おとうさんものんでもいい。

「は ん た い」

小学 男子

おとうさんは、お酒で病気になるからないほうがいい。

小学 男子

酒をのむと、人のめいわくを考えないで、自分の好きなことをやるからだ。酒、しょうちゅう、ビール、ウィスキーなどこの世界から消えうせろ。うちはどけん屋だから、たてまえのときなど、みんなが酒をたくさんのもので、じむしょで大ごえでどなったりするからいやだなあ。

小学 女子

おさけをたくさんのもつと、よっぱらって、じこがしんばいだ。
それにうちのなかがおもしろくなる。それと、いいものをもってやるなんていって、つぎの日になるとかってくれない。

「しんばいしています」

(一九六五・三)

小学 男子

ほくの家では、たまたまおとうさんと、おかあさんとけんかをする。あまりすると別れるかと思う。子どもを心配させないように仲よくすること。

小学 男子

いま、ベトナムとせいふ軍がさかんに戦争をやっているが、早くやめてほしい。それは、もしいまの戦争がひどくなると、アメリカやソ連のばくげき機が出て、横田きちもばくげきするだろう。だからこの福生町もあぶなくなる。

おとうさんは、自動車でつうきんしているの、かえりがおそいときはしんぱいだ。

「おとなはよく守ってください」

(一九六五・一)

子ども一同

おとなは子どもをみると、注意したりおこったりする。私はそのたびに頭にくる。だからお正月ぐらいは、その反たいにしておこってあげたい。

1 よっぱらいうんでんぜったいきんし。

2 お酒、たばこには、ぜい金がかかっているからたくさんのお金。

3 おとし玉、多くすること。

4 よっぱらって、ドブにおちたりするな。

○家にばかりいないで、だいしさまにつれてったりして、子どもをかわいがること。

○うちのおとうさんは、いつもたばこをすっていて、うちの中はスモッグでごちそうがまずくなる。

○お正月だと、おとなは一日中お酒をのむ。いつもと同じくらいのものであればじこがない。

○おとうさんはよっぱらうと、すぐにうたいます。だからテレビのこえがきこえない。どうせへただからしずかにうたいなさい。

○お正月ぐらい、テレビを子どもだけにみせておくこと。はやくねるなんていわないこと。

○うちの人は、お正月はそんだという。なぜかという、おとし玉をやらなければならないからだ。お正月ぐらいにこにこして、すぐにおとし玉をください。

○おとなはいそがしいといって、カルタなんかやらないが、お正月は、子どもといっしょにやってもいい。

○おとなは、お正月はよく出かける。お正月でもあんまりむだづかいをしてはいけぬ。(バーにいたり、パチンコをしたりしない。それから子どもにはお年玉をあげる。子どもはよろこぶからむだづかいではない。)

○おかあさんは、わたしのことをねぼうするいうけど、じぶんたちだっておきるのはおそい。じぶんではやれないことをガミガミいうのはやめてもらいたい。

○うちは、みんなであたり、のんだりしてたのしいお正月をむかえたい。おとうさんはお正月ぐらいおこらないで、ゆかいにわらってくらしたい。

○お正月に、ぼくはじぶんでこんな注意をしたい。

1 おにいちゃんと仲よくする。

2 くいすぎない。

3 しんせきにお年玉をもらいにいかない。わるいから。(だけどお年玉はほしい。)

「しんばいです」

(一九六五・八)

小五 女子

わたしはあんまりおかあさんのてつだいをしない。もしこのままおとなになってけっこうしたら、わたしはなまけものといわれるかもしれない。でもおとなになるまでにはなんねんもあるから、その間になおせるかな。それには、おとうさんやおかあさんのてつだいをたくさんしなきゃあ。

小六 女子

わたしは大きくなったらなになるか心配いでしたかたない。自分ではようちえんの先生か、かんごふさんがいいが、お父さんやお母さんにはなすと、かんごふさんなんてたいへんだといわれる。ようちえんの先生になるのも学校へいかなきゃあだめだという。大きくなれば自分にあつたしごとがみつかるだろう。

小六 女子

このあいだ大学生のおにいさんが、男は女の子とあまり話をすると早く死ぬといった。これから教室で、あまり女のほうをむかないようにしよう。

小五 男子

いつもおかあさんに勉強しろといわれるので、きょうもいわれるかとおもうと家にかえるのがいやになってしまう。

小五 男子

小六 女子

わたしの席のそばには男の子でうるさいやつがいる。いまの男はテレビなんかにてでくるのもみんなおしゃべりでこまる。

「おとなの人に」

(一九六五・五)

中学 女子

学校の先生に、自転車にのっているときは、アイスクリームなどをたべてはいけないといわれたけど、おとなは自転車にのってタバコをすっている。たばこだってアイスクリームと同じようなものでしょう。

中学 男子

せんきよの時、「私は町を美しくします。投票してください」などといっていた。だけどせんでんの紙をいつまでもはっておく。なにが町を美しくしますだと、くやしくなる。

「しんばいしています」

(一九六六・四)

小四 女子

おとうさんは、しごとにくとごまかして、いつもおさげばかりのんでくる。そして、夜おそくかえってくる。そしておかあさんとけんかをする。そんなおとうさんは大きらいだ。おとうさんは少しはうちのせいかつのことやおかあさんのことをかんがえてくれたっていいと思う。おかあさんばかりはたらかしておとうさんはあそんでばかりいる。わたしが学校でいつものようにおさげばかりのんでいるおとうさんのことを思うとなみだがでるようだ。

小四 女子

おとなになってふとったらいやだなあ。

小四 男子

今日テストを二まいして二まいとも百点だったので家でへんなことをいわれてしまった。あ

んまり百点をとりつけないからこまってしまう。

小四 男子

うちのきんじょのおじさんのあたまのうしろのほうがまるくはげている。ぼくはおじさんとあうたびに大きいこえて、はげとよんでみたい。

小四 女子

わたしは四年のときよりつうしんぼがさがあると、しゅくだいがなくてもおかあさんにみっちりべんきょうをやらされる。わたしはいまでもいちばんきにしていることは、ただそれだけです。

「ちかごろのおとな」

(一九六五・一〇)

小六 男子

ちかごろの青年は、タバコのすいがらを道などにすてる。ぼくたちがあとからいってけす。

それはもっとおとなが悪いからこうなる。先生たちも子どもにばかりもんくをいってないでちゅういしなさい。

小六 女子

うちのおとうさんは、つとめからかえってくると「ろうかがきたない」という。わたしは、「ちゃんと朝ふいたわよ」という。おとうさんはそのあともぶつぶついついてる。

小六 女子

わたしは、そろばんの四級がなかなか受からない、うからないのは親ににたからだといったら、おかあさんは、親は頭がいいけど、おまえのどりよくがたりないといった。わたしはどりよくしてるんだけどな。

小六 男子

このごろよのなかがふきょうになって、おとなはすぐけちってる。だって、おこづかいはい日、二十円か三十円しか。おとなは自分のすきなお酒をのむしテレビなどかってにまわして

しまう。いうこともなまいきでかかんぼだから、もっとまじめにやって、きゅうりようをふやすようになってもraitたい。

小四 女子

おとうさん、おとうさんは子どもがきらいだきらいだといっているのに、ひろみちゃんくるとかまったりする。きらいなのに、どうしてかまうのだろう。

小五 女子

うちのおかあさんは、きものやふくをつくったりするのに、だいじにしまっておいてなかなかきかない。

小五 男子

おとうさんはお酒をのむとすぐもんくをいう。おこったりするならお酒なんかのまなければいい。そういうたいどで子どもにいったって子どもはおやをばかにする。

小五 男子

おとなの人は、ふみきりのしゃだんきがなっているのにわたるから、やめてほしい。

小五 男子

「福生町にも図書かんを……」

中学一年 女子

おにいちゃん、立川の図書かんへ行って勉強する。定期があるから、しょっちゅういけるが、私たちが行くには、電車ちんが、おうふく八十円かかる。

だから、そんなとおくへいかなくてもすむように、福生町にも図書かんをつくってほしい。

「おとなはうそつきだ」

中学二年 女子

大人は、子どもの意見を尊重してくれない場合が多い。

たとえば、

「明日は、みんなでそろってどこかへ出かけよう」などと意見を出しても、

「明日はおとうさんはいそがしいからだめだ」という。そのくせ、いそがしくなかったというときが多いと思う。

おとうさんが自分でいいだしておいて、それを実行しないという時もある。

子どもをばかにしているんだな。そんな大人は大きらいだ。大人になんかなりたくないな。でもやがては、私たちも大人になって、うそをいうようになるのかと思うと、なんだかしやくだな。

「町内新聞」をつくったら

小六 女子

町内に大きなけいじ板があります。そのけいじ板に「町内新聞」をけいじしたらいい。

わたしたちが学校新聞をつくってはり出すように、おとなと子どもがいっしょに「町内新聞」をはり出せば、町のことがいりるわかっておもしろい。

中学 一年

私たち中学生ぐらいになると男女のかんけいがふかくなってお父さんやお母さんがへんな目でみますが、それはほんとうにごかしいです。ただ男女で歩いているだけでへんな目でみられてはこちらいやです。昔はこういうことはどうだったんですか。

昔はこれこれだと子どもをしっかりとつけてもそれはむりというものです。

小五 男子

福生には子どもの遊びばがすくないな。遊ぶ所は学校の校庭ぐらいだ。あき地はすこしはあるけど、家があってせまいし、草が多い。だから遊びばを作ってほしい。

小五 男子

今、ベトナムで戦争をやっている。アメリカが兵隊を出さないで、こん度日本で兵隊をだすことになるかもしれないと、お父さんから聞いたので、ぼくたちがベトナムにいった戦争をやるかもしれないので心配だ。

「珠算学校で」

(一九六七・三)

小五 男子

珠算学校はきびしすぎる。ぼくがであるいたら、先生が立っていなさいといった。ぼくもそのときわるいことしたなとおもったけれど、たすことはないとおもう。立っていたらそれいじょうべんきょうができないと思う。

小四 女子

一、この珠算学校は、雪の日などは、バスなどをだしてもらいたい。

二、わたしは大きくなったら、この珠算学校の先生になって、「先生」なんて言われてみたい。

三、わたしは先生になったら、この珠算学校をりっぱにしてみんなにそんけいされたい。

小五 女子

私の父は、私がそろばんで暗算二番なんかとってくると、すぐ「三級合格したのか」とき

く。私が父に「どうしてそんなときくの」ときいたら父は「しんぱいだからな」という。

私は「もし一級とったらどうする」というと、「うれしくてさかだちするな」という。父はそういつてうそをつく。父のいうことはあてにならないのです。でも父はとてもやさしい人です。

「ぼくのなやみごと」

(一九六七・三)

小五 男子

ぼくはいまなやんでいる。それは、いまいもうとに五十円かりているからです。それを十六日までにかえすことになっている。だけどいまのぼくにはお金がぜんぜんない。だからかえせるかかえせないかわからない。ぼくはアルバイトをやってみようかと思うが、なにをやったらいいかわからない。いもうとがそばにくるとびっくりする。お金のない人のきもちがよくわかった。

「山崎先生へ（珠算学校退学届）」

（一九六四・四）

わたしは、そろばんへいくのが、はじめはおもしろかったけれど、だんだんつまらなくなりました。そろばんをやっているときはおもしろいけれど、そろばんへいくとちゅう、ひとりでいくのがいやになりました。

どうして、わたしは一人でいけないのでしょうか。森田さんたちは一人でもいけるのが、うらやましいです。

お父さんもお母さんも、わたしがあまりそろばんへいかないので、やめてしまえといったので、わたしはやめることに決心しました。あまりいかにいにお金をはらってもむだです。

お父さんが一生けんめいはたらいたお金をむだにはできません。さようなら。

「グループ・サウンズ」

（一九六七・一一）

小五 女子

テレビで、グループ・サウンズを、おにいさんで見ていると、おとうさんやおかあさんが「うるさいねえ」「子どものうちからこんなのを見ていると、ふりようになりますよ」という。

でも、わたしたちの組の女の子は、む中でグループ・サウンズの歌をうたっている。おとなもテレビでグループ・サウンズを見て、もうすこしりかいしてもらいたい。

小六 女子

私は、グループ・サウンズにあこがれている。でも家では、姉がテレビを見て、さわいでいる。プロマイドなどを家でひろげると、おこられてしまいます。

見てわるいことがあるのかな、おとなは、なんでそんなに思っているのかな。

小六 女子

うちのおとうさんは、テレビでザ・タイガースなんかがおどったりしていて、わたしもいっしょにおどると、すぐ「なんだ、あんなものは」という。

わたしなんか、どうしてこういうのがいいと思うのか、わかんないでもんくばかりいうか

ら、おとなはだめなんだ。

「グループ・サウンズ」

小学 女子

このごろ月報に、グループサウンズの意見がのっている。私はいつもそこだけ熱心によむ。それで、私の意見もきいてもらいたい。

うちでは、父母も妹も、私も全員グループサウンズが好きだ。とくに私だ。それに父は、私たちといっしょに、夜、ゴーゴーを踊る。それで若いつもりでよろこんでいる。そんなところが私は好きだ。母も、ザ・タイガースの、モナリザの微笑をくちずさんでいる。そういう時うれしくなって、いっしょに歌ったり、レコードをかけたります。それに、カーナビーツのドラムのアイ・高野がやる「おまえのすべて」を、父はよくおはしをもってまねする。おおみそかにやる、「これがグループサウンズだ」も、みんなでみようとはなしている。

小学 女子

大人は、グループサウンズをきらう。なぜきらうのかけんとうはついている。かみをのばしているとか、うたがへただとかいってけちをつける。人がかみをのばしているのなんかどうだっていいのに。

ザ・タイガースのボーカル担当の沢田研二こと、ジュリーの妹は小児まひで、しゃべることもあるくこともできない。ジュリーは妹のために、有名な人になろうと努力したんだ。そしてグループサウンズ人気投票で第一位。また、ザ・タイガースは十二月十三日、サンケイホールで「チャリティショー」をひらく。理由は、日本十二万人もの小児まひの人のためで、そのお金をきふしようと、いうことからなんだ。

うちの父母は、そういうことがわかってきた。でもまだ理解してくれないガンコおやじが沢山いると思う。思うんじゃないか。

NHKはこのことなど知っているのに、紅白歌合戦に、ザ・タイガースを出場させないんだから、まったくHNKのやつらは「がんこ」だ。

「大学生のデモ」

小学 女子

デモってすごいなあ。まるで、精神かんじゃみたい。おとなどうしが、棒や石などなげたりして、日本人どうしの争い。さんこくだ。

デモをやるのもいいけど、サバクみたいところで、やってもらいたい。罪もない人まで、ひ害を受けている。

そうり大臣が、ちゃんと政治をやっていないから、デモがおこるのだ。そうり大臣が、もっとしつかりすればいい。

「親がすすめたごまかしのきつぷ」

(一九六八・二)

●かぞく旅行に出かけた。駅できつぷを買うとき、父母から「おまえのきつぷは子どもで買ってあるから。聞かれたら、子どもです、といいなさい」といわれた。君は中学生。さてどうする。

小学 女子
やっぱり子どもになります。いまは、なんでもかでも値上りして、そうでなくても大変なのに、むりして高いきつぷを買うこともないと思う。

「うん、そうしてやるから、今月のおこづかい倍にしてね」

中学 女子

私はちゃんと大人をかう。うそをつくことは一番いけないことだ。へいきでうそをつく、大人には、たとえ父母であっても私はデイクウをかんじるな。

中学 女子

親がうそを言うのなら、家計のためにがまんする。

小学 女子

中学 男子

それじゃあぼくは子どもだね。じゃあ「中学生だから勉強しなさい」なんてもういわないね。それから、弟とけんかしても、「もう大きいんだから」って、おこらないね。

中学 女子

どこの家でもやってることだから、そう気にしないで、子どもになってあげる。これも親孝行をしたいため……。

中学 男子

じょうしきで考えれば正直に大人分を買うべきだが、なにしろ電車ちんが半分になるのだから、そうとうの金もちでない限り、だいたいの方は、ちょろまかすであろう。

小学 女子

おとなは、大部分の人が、じぶんのためになるとうそをついたりするからずるい。このしつもんも、みんなおとなに見させて、そういうとき、どうしたらうそがうまくいくか、としてるんじゃない……。

中学 女子

大人は、金銭問題になると、自分たちだけの利益を考え過ぎると思う。そういう場合、子どもたちに、肩身の狭い想いをさせているわけである。親はもっと、子どもの立場を理解したほうがよい。

こういうことを平気でする親がいるから、子どもそれを繰り返している。そしてこの世はいつわりの世になってしまう。

中学 男子

悪党だな、と思うだけで、いうとおりにする。

「親切なおじさんとおれいのしかた」

(一九六八・一二)

● 子どもだけでデパートにいて、そのデパートで一人がころんでかるいけがをした。デパートの警備のおじさんが手当をして、駅まで送ってくれた。

その子の家では、次のような話が家族中でかわされた。

- 1 何か品物を持って、デパートのおじさんの所へお礼にいきこう。
- 2 お礼のあいさつを書いて、手紙で出せばいいよ。
- 3 おじさんは仕ごとで親切にしてくれたんだからあたりまえだ。だから何もしなくていい。さあ、けがした子が自分だとして、君だったらどうしますか。

小五 男子

たとえしごとでも、このごろはそういうしんせつな人はいなくなった。だからおれにいくほうがいい。

小六 女子

わたしだったら、おかあさんといっしょにお礼にいく。

いくらその人の仕ごとでも、いまだき他人にそんなに親切にしてくれる人はいないと思う。ただし品物をもっていかない。

言葉だけでも、感謝の気持ちがつうじると思うから……。

小六 女子

小六 女子

手紙でお礼の言葉を書きおくる。もし、自分でもお母さんでもその近くへいくことがあったら、あらためてお礼をいう。

小六 女子

私は手紙でお礼をすればいいと思います。

なおったときは、また手紙で書いてお礼をいいます。

小六 男子

ある先生からきいた話だけど、ある日本人がアメリカにいく時英語はぜんぜん知らなかったが、とちゅう一つだけならった。

それは「ありがとう」というお礼のことばだった。

アメリカで、向こうの人になにかしてもらった時、あかるい顔で「ありがとう」というと、向こうの人にもこにこする。

この時のばあいも同じだと思う。手紙でお礼をいっておくのが一番いいと思う。

新聞やテレビなどで、このごろの若い人は常識がない、子どもたちもドライだ。などとよく聞きます。それで、この質問のような場合、3のような回答が出てくるかと思ったら、そういうのはなかったのです。

小学五、六年が大部分のクラス百人に聞いてみたが、1のお礼にいくというのが二割ぐらい。あとは、手紙でお礼をいうというのが全部だった。

「自転車通学はあぶないか」

(一九六四・一〇)

小五 男子

べつにぼくはどうかのいうわけでもないけど、おとなが会社で自動車でいくように、子どもだって珠算学校なんかへ自転車にのっていくけんりがあると思う。ちかい人はあるきできて、とおい人もなるべくあるきできたほうがいいと思う、けどたまに自転車にのっていいと思う。

まして、子どもはおとなより交通どうとくはまもる。おとなはよっぱらったりするけど子どもはそんなみっともないことはきらいだ。

中一 男子

うちからここまで、

自転車で八分

かけて十五分

あるきで二十五分

小六 女子

うちのおかあさんなんか、自転車はあぶないってよくいうのに、おつかいをたのむときは自転車にのってなんにもいわないの。

小五 男子

自転車でもだいじょうぶじゃないですか。どこの学校でも交通安全になると、自転車ののり

かたやわたりかたをおしえてくれるじゃないですか。ならわしたのなら、のったってへいきじやないですか。

小四 女子

自転車にのってはいけないなんてぜったいはんたい。それならおとなは、もっと広い道をつくって子どもがあんしんできるようにしてくれるの。いちばんいいのは、うごく道にしてくれること。

「子どもの交通教室」

(一九六七・一二)

中一 男子

ぼくはおとなはずるいと思う。平気で左がわをあるく。ふたりのりをするなというが、おとなが二人のりをするから、子どもがするのはあたりまえだ。おとなは、子どもに注意する前に、自分たちで交通きそくを守って見せてほしい。

小六 女子

このあいだ十字路で、左にまがるというアイズをしながら、右にまがってきた車があった。私の前で急にまがった。まだ車にのりたてでよくわからない人かもしれないが、ブーブーとならすかなにかして子どもに気をつけてください。

小六 女子

学校では、一れつとうこうをしろという。でもみんなはそれを守らない。なぜかというところ、おとながそうしていないからだ。

だから、一れつとうこうのことは、よく考えてからいってもらいたい。